

## 第1号議案 2023年度事業報告

### 各公益事業ごとの事業報告詳細（千円以下を切り捨て表示しています）

#### ◎「公募助成金」報告

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や先駆的事业でどこからも援助がない団体などを一般公募し事業助成する。今年度は9月13日～12月15日の期間、応募を受け付け、2月2日に選考委員会を開き、下記17団体に総額365万円の贈呈を決定。

#### 公益事業1「公募福祉助成金」4団体に95万円（8P参照）

LFA食物アレルギーと共に生きる会（大阪府吹田市）▽大阪交通災害遺族会（大阪市）▽MAMIE（同市）▽神戸いのちの電話（神戸市）

#### \*高齢者福祉特別枠助成4団体に40万円（7P参照）

認知症予防サポートネット（兵庫県西宮市）▽パソコンボランティアWing（堺市）▽morimoto音楽堂（大阪府和泉市）▽Bella Muse（兵庫県姫路市）

#### \*児童福祉特別枠助成4団体に100万円（新規事業・5P参照）

紙ひこうき（大阪市）▽平野区みんな食堂ネットワーク（同市）▽ふらいおん（同市）▽米とわたしと合同会社（神戸市）

#### 公益事業2「シンシア基金公募助成」1団体に50万円（12P参照）

日本介助犬協会（愛知県長久手市）

#### 公益事業4「世界子ども救援金公募助成」4団体に80万円（14P参照）

Inna Project（さいたま市）▽CLOUDY（東京都）▽Piece of Syria（大阪市）▽ネパール震災プリタム実行委員会（神戸市）

## 公益事業1 国内外の福祉に関する事業

一般寄付金は3月末現在で1,227件3,700万円（前年1,206件5,502万円）が寄せられた。

このうち歳末の「チャリティー名士寄贈書画工芸作品入札・即売会」、3月の「特別即売会」の売上金は計1,728万円で、義援金960件1,343万円との合計は3,071万円。（前年比約669万円増）となった。

一方、指定正味財産の部では「小児がん征圧募金」に103件645万円（前年151件237万円）が寄せられた。これらの資金をもとに次の事業を行った。

## 児童福祉に関する事業

### 主催事業

#### ◎母の日・父の日募金キャンペーン (支払助成金より56万円支出)

「プレゼントをあげる親がもういない」との声をきっかけに、親を亡くしたり、一緒に暮らせない子どもたちを支援するキャンペーンで、5月13日と6月17日付朝刊で募金を呼びかけ、9月に、あしなが育英会に26万円、C V V (社会的養護の当事者支援団体)、子どもセンターぬつく、チャイルド・リソース・センターに各10万円の合計56万円を贈呈した。 添付資料-1

#### ◎「施設児童就職予定者研修会・施設から就職する生徒に祝い金贈呈」 (支払負担金より75万円を支出)

大阪府下の児童福祉施設で暮らす高校生などを対象に、社会人としての心構えなどを学ぶ研修会が昨年7月から計14回行われた。大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部、大阪府社会福祉協議会が主催し、本団後援。2月4日の閉講式では、本団の主催事業として、高校を卒業して就職する75人(対象者全員)に激励の意味を込めて祝い金を1人1万円ずつ贈呈した。(研修会は1975年～・祝い金贈呈は1962年～) 添付資料-2

### 共催分担金事業

#### ◎そよかぜ杯ボウリング大会 (支払負担金より42万円支出)

6月18日、大阪市の心斎橋サンボウルで近畿各地の交通遺児をはじめ、病気・災害遺児らとその家族など約80人が交流した。大阪交通遺児を励ます会と共催。

添付資料-3

#### ◎「ゆうゆうキャンプ」 (支払負担金より40万円支出→32万円)

被虐待児童の社会性を養うため、1泊2日のキャンプをはじめ、日帰りハイキングなど年間3回の行事を実施。6月17、18日、10月28、29日に貝塚市の大阪府立青少年自然の家で開催。大阪府青少年活動財団と共催。開催経費のうち40万円を分担助成した。

#### ◎小学6年生ハチ北林間ホーム (支払負担金より10万円支出)

8月6～8日、大阪市管轄の児童福祉施設で暮らす小学6年生ら48人を、兵庫県香美町のハチ北高原に招待した。大阪市児童福祉施設連盟と共催。開催経費のうち10万円を分担助成した。

#### ◎「第55回新春こども大会」 (支払負担金より5万円支出)

1月、大阪市が管轄する児童福祉施設の子どもたちが、冬休みに練習した踊りや演劇などを大阪市立こども文化センターで発表する予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止になり、絵画コンクールのみ実施した。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。開催経費5万円を分担助成した。

◎「第36回駅伝・ロードレース大会」 (支払負担金より5万円支出)

2月17日、大阪市が管轄する児童福祉施設の小・中学生約200人が参加する駅伝・ロードレース大会を、大阪府吹田市の大阪市立弘済小中学校グラウンドとその周辺で実施。大阪市、大阪市児童福祉施設連盟と共催。

児童福祉特定団体助成・支援事業 (文末のカッコ内は：支払助成金または経費)

◎「児童福祉特定団体助成」 (支払助成金より50万円支出)

2023年2月に寄託のあった寄付金1,500万円を基に2032年度までの10年間、児童福祉特定団体助成(年間50万円)と公募福祉助成金「児童福祉特別枠」(年間100万円)設け事業助成する。今年度の「児童福祉特定団体助成」はヤングケアラー支援を行う当事者団体「ふうせんの会」へ50万円を3月に贈呈した。(公募福祉助成金児童福祉特別枠は8P「公募福祉助成金」欄を参照)

\*琵琶湖セツルの家＝7月1日～8月31日、滋賀県大津市の琵琶湖畔に宿泊施設を開設、保育所、児童館、子どもの家などの利用者に開放した。大阪市地域福祉施設協議会の主催。本団が単独で助成後援した。(8万円)

\*母と子の一泊旅行＝7月8～9日、大阪府下の母子寮の親子40人を、和歌山県の白浜温泉と白浜アドベンチャーワールドへのバス旅行に招待した。大阪府民間母子生活支援施設連絡協議会の主催。本団は単独で助成後援した。(28万円)

添付資料－4

\*里親ふれあいキャンプ＝8月16～18日、小学1年生以上の里子を対象としたキャンプ。兵庫県香美町の尼崎市立美方高原自然の家「とちのき村」で開催する予定だったが、台風7号が直撃、防災気象情報警戒レベル5が発令され、現地受け入れが出来なくなり中止となった。毎日新聞社とともに愛の手運動(里親さがし運動)を展開する家庭養護促進協会が主催。本団が単独で助成後援。(18万円→0円)

\*第70回児童福祉施設スポーツ大会＝8月16～17日、名古屋市管轄の児童養護施設で暮らす児童・生徒の野球、ソフトボールの大会。大高緑地公園野球場で開催。名古屋市、同市社会的養育施設協議会が主催。費用の一部を助成後援した。(1万円)

\*自立支援プログラム いずみサロン＝11月～2月、名古屋市内の児童養護施設で暮らす中学2年生以上を対象に、自立支援のための調理実習や職業体験、カウンセリングなどを実施。就労支援事業サポートいずみが主催。費用の一部を助成後援した。(39万円)

\*北摂子ども大会代替事業「北摂作品展」＝北摂地域の児童養護施設などに暮らす子どもたちがスポーツを通じて日ごろの成果を披露する「北摂子ども大会」の代替事業として、1月20日～2月20日、児童が作った工作、絵画、和歌・俳句、写真、動画などを展示する「北摂作品展」を元健康の里本館で実施。北摂児童施設連盟の主催。本団が単独で助成後援。(5万円)

\* 児童福祉施設に絵を贈る運動＝12月末、子どもたちの情操教育の一環として「チャリティー名士寄贈書画工芸作品 入札・即売会」に寄せられた作品から絵画6点を愛知・岐阜・三重県内の児童養護施設に贈った。 添付資料－5

## 医療福祉に関する事業

### ◎「小児がん征圧キャンペーン」 (支払助成金より845万円を支出)

1996年から毎日新聞社と展開している「生きる－小児がん征圧キャンペーン」と連動した「小児がん征圧募金」は、3月末日までに103件645万円（前年151件237万円）が寄せられた。3月に贈呈式を開き、次の13団体に各65万円ずつ計845万円を贈呈した。 添付資料－6

1. チャイルド・ケモ・サポート基金（神戸市中央区）
2. 日本クリニックラウン協会（大阪市北区）
3. 近畿小児血液・がん研究会（大阪府吹田市）
4. 京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ  
「にこにこトマト」（京都市左京区）
5. 京都ファミリーハウス（京都市伏見区）
6. あいち骨髄バンクを支援する会（名古屋市千種区）
7. 守口ぶどうのいえ（大阪府守口市）
8. TSURUMIこどもホスピス（大阪市鶴見区）
9. しぶたね（大阪府大東市）
10. ぷくぷくばるーん（名古屋市中区）
11. 名古屋小児がん基金（同市中区）
12. 三重大学病院小児科父母の会・ひだまり（三重県鈴鹿市）
13. 京都・がんと生殖医療ネットワーク（京都市左京区）

### ◎コロナ対策医療支援金 (支払助成金より53万円支出)

医療従事者を広範に支援するため、「コロナ対策医療支援金」の募集を2020年5月4日付朝刊から開始し、23年5月で支援金の募集を締め切った。5月8日に第7次贈呈分として大阪府看護協会へ53万円を寄託。2020年からの贈呈総額は5,153万円となった。

## 高齢者福祉に関する事業

### ◎配食サービス車贈呈事業 (支払助成金より188万円支出)

国際高齢者年の1999年から始まった「配食サービス車贈呈事業」は、2月末から毎日新聞紙上などで公募し、2団体から応募があった。6月16日、学識経験者らによる選考委員会を開き、神戸市北区の「特定非営利活動法人インクルひろば」に贈呈が決定。9月28日に現地で贈呈式を行った。今回で37台目の贈呈となる。

添付資料－7

◎「公募福祉助成金・高齢者福祉特別枠」 (8P・公募福祉助成金参照)

2021年度に寄託のあった遺贈金を基に2026年度までの5年間、公募福祉助成金に「高齢者福祉特別枠」を設け、一般公募による事業助成をする。9月～12月15日の期間、応募を受け付け、2月2日に選考委員会を開き下記4団体に総額40万円を助成した。

1. 認知症予防サポートネット (兵庫県西宮市)
2. パソコンボランティアWing (堺市堺区)
3. morimoto音楽堂 (大阪府和泉市)
4. Bella Muse (兵庫県姫路市)

## 心身障害者福祉に関する事業

### 共催分担金事業

◎第36回専門点訳・音訳講習会 (支払負担金より100万円支出)

専門書の点訳、音訳の技術を修得するための講習会。受講後は点訳・音訳ボランティアとして活躍。日本ライトハウス情報文化センターと共催。

#### 専門点訳講習会

- ・「点字の世界を追求する触知コース」 5月18、25日・6月24、7月1日 全2回を2回、合計31人
- ・「マンガ点訳コース」 7月13～27日 全3回、14人

#### 専門音訳講習会

- ・「小説の読み方コース」 8月29日 17人
- ・「雑誌の製作コース」 9月14、28、10月5、26日、11月2、9日 全6回、25人
- ・「小説の読み方コース」 11月7日、全1回、18人
- ・「音声デイジー編集コース」 2月1、8、15日、全3回、12人

◎第26回視覚障害者ICT・サポートボランティア講習会

(支払負担金より30万円を支出)

1997年度からの継続事業で、視覚障害者の情報環境を支えるICT(インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー)機器を利用する視覚障害者に、操作方法などを教える指導者養成のための講習会。受講者を公募しiPhoneの機能などについて学ぶ。日本ライトハウス情報文化センターと共催。

- ・①5月6日 開講式、iPhone講習会、10人
- ・②5月27日 サピエ活用講習会、6人
- ・③6月24日 インターネット活用講習会、10人
- ・④7月22日 iPhone体験会、20人
- ・⑤8月26日 ネットショッピング講習会、6人
- ・⑥10月7日 パソコンフリーソフト体験会、9人
- ・⑦10月28日 iPhone/ipad体験会、7人
- ・⑧11月18日 弱視者向けWindows画面拡大表示ソフト「Flowy」体験会、3人

- ・ ⑨11月25日 iPhone活用講習会、10人
- ・ ⑩2024年1月27日 「ZOOM」 を使用しての機器やアプリの情報交換などオンライン交流会、28人

◎「声の点字毎日」の発行 (支払負担金より5万円支出)

全国の国立ハンセン病療養所8カ所で生活している視覚も皮膚感覚も失った人たちに点字毎日の「声の点字毎日デイジー版(月2回発行)」を寄贈する事業。費用の一部を、東京・西部社会事業団とともに5万円ずつ分担した。

◎第91回全国盲学校弁論大会 (支払負担金より20万円支出)

10月6日、秋田県立視覚支援学校体育館で開かれ、大阪府立大阪南視覚支援学校高等部普通科2年の酒井響希さん(17)が優勝した。毎日新聞社点字毎日、全国盲学校長会と共催。本団は2002年度から共催に加わった。東京社会事業団も20万円、西部社会事業団は10万円を分担した。(1928年～) 添付資料-8

心身障害者特定団体助成・後援事業(文末のカッコ内は:支払助成金)

\* 第36回全愛知ろう社会人軟式野球秋季大会=7月9日、愛知県日進市の口輪義運動公園野球場で開催。本団が助成後援した。(材料費:レプリカ代4,400円)

\* 第58回全大阪ろう社会人軟式野球秋季大会=7月2、9、23日、大阪府久宝寺緑地公園軟式野球場などで開催。本団が助成後援した。(1万円)

\* 第48回わたぼうし音楽祭=奈良県大和郡山市のDMG MORIやまと郡山城ホール大ホールで8月6日に開催。最高賞のわたぼうし大賞には滋賀県近江八幡市の奥田実里(18)さんが作詩・作曲した「僕らが諦めたのは、」が選ばれた。(大阪社会事業団20万円・東京社会事業団10万円・西部社会事業団5万円)

添付資料-9

\* 第49回愛知心理療育キャンプ=8月19、20日、9月17日、10月15日などに愛知県刈谷市の北部生涯学習センター・洲原ロッジなどで開催、助成後援した。(3万円)

\* 名古屋市視覚障害者協会の機関紙「のぞみ」第44号発行=1月に発行した上記製作費用を助成した。(3万円)

他の社会福祉事業団体の事業助成

◎「公募福祉助成金」 (支払助成金より235万円支出)

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や先駆的事业でどこからも援助がない団体などを一般公募し事業助成する。今年度より公募福祉助成金の中に児童福祉特別枠を設けた。9月~12月15日の期間、応募を受け付けて2月2日に選考委員会を開き、下記12団体に総額235万円を助成した。

「公募福祉助成金」4団体に95万円

1. LFA食物アレルギーと共に生きる会(大阪府吹田市)

2. 大阪交通災害遺族会（大阪市中央区）
3. MAMIE（同市北区）
4. 神戸いのちの電話（神戸市中央区）

**\* 「児童福祉特別枠」 4 団体に100万円**

1. 紙ひこうき（大阪市天王寺区）
2. 平野区みんな食堂ネットワーク（同市平野区）
3. ふらいおん（同市淀川区）
4. 米とわたしと合同会社（神戸市東灘区）

**\* 「高齢者福祉特別枠」 4 団体に40万円**

1. 認知症予防サポートネット（兵庫県西宮市）
2. パソコンボランティアWing（堺市堺区）
3. morimoto音楽堂（大阪府和泉市）
4. Bella Muse（兵庫県姫路市）

## その他目的を達成するために必要な事業

### ◎ 毎日社会福祉顕彰 （支払負担金より124万円を支出）

本団創立60周年記念事業として始まり、53回目。毎日新聞紙上等で公募し、5月末に応募を締め切り、次の3団体が選ばれた。 添付資料－10

#### ◇ 認定NPO法人 横浜移動サービス協議会（横浜市中区）

服部一弘理事長が1986年に北米大陸をバイクと車で1周する挑戦の途中で事故に巻き込まれ脊髄を損傷し、車椅子生活となった。外出の際の移動に不便を感じる生活を送る中、2000年に友人と共に設立。障害者や高齢者を対象に、外出支援のほか、健常者にも障害者の目線を体験してもらう取り組みなどを行っている。

#### ◇ 認定NPO法人 愛実の会 人形劇団紙風船（名古屋市港区）

1996年に養護学校のクラブ活動して始めて以来、愛知県内外での公演は250回を超える。現在は生活介護事業所の活動として、重い障害がある人らと健常の職員たちが協働し、人形に命を吹き込み心のバリアフリーを広げている。

#### ◇ 阪神高齢者・障がい者支援ネットワーク（神戸市兵庫区）

1995年の阪神大震災から5カ月後に発足。神戸市西区の仮設住宅を拠点に、全国初となる24時間態勢での高齢者の見守り活動を実施した。99年以降は市内各所の災害復興住宅でお茶会を開き、転居した高齢者の孤立防止やコミュニティーづくりに尽力した。

### ◎ 「歳末たすけあい運動」 （支払助成金より70万円を支出）

「義援金」募集や「チャリティー名士寄贈書画工芸作品 入札・即売会」を実施。義援金は960件1,343万円（前年898件1,028万円）で前年比315万円の増。「チャリティー名士寄贈書画工芸作品 入札・即売会」は12月9日～11日、毎日新聞大阪本社地下1Fオーバルホールで開催。4年ぶりに即売を復活させるとともに、初めてクレジットカード決済も導入した。売り上げは1,397万円（同1,082万円）、前年比315万円の増となった。以上の寄金をもとに70万円を歳末慰問金として次の7団体に配分した。

大阪子どもの貧困アクショングループCPA0▽大阪更生保護施設連盟▽大阪家庭少年友の会▽こどもの里▽聖マッテヤ子供の家（児童養護施設・三重県津市）▽白鳩学園（同・岐阜県恵那市）▽オリーブ（同・愛知県碧南市）。

残額は、今年度以降の公益事業1（国内外の福祉に関する事業）の資金として活用する。

\*「チャリティー名士寄贈書画工芸作品 特別即売会」＝過去数年にわたり「チャリティー名士寄贈書画工芸作品 入札・即売会」に寄せられた作品の在庫蔵出し即売会を3月9日、毎日新聞ビル地下1階のうめだMホールで開催。256点285万円の売り上げがあった。

◎機関紙「そよかぜ」の発行（印刷製本費より16万円を支出）

「そよかぜ」56号を製作し、6月1日に2,000部を発行。寄付者や関係機関・団体等に送付した。

◎「指定寄付金事業」（支払助成金より13万円を支出）

寄付金の中で助成先が特定された寄付金。「愛の手運動に」など7件13万円が寄せられた。

その他の名義後援事業

とき	案件名	ところ
4月2、23、30日	第60回全大阪ろう社会人軟式野球 春季大会	大阪府営久宝寺緑地軟式野球場、寝屋川公園第1野球場、大阪市長居公園野球場
4月9日	第43回愛知県聴覚障害者体育大会	豊橋創造大学アリーナ他（愛知県豊橋市牛川町松下20-1）
4月15、30日、5月20、21、27日	令和5年度愛知県障害者スポーツ大会	名古屋市千種区の星が丘ボウル、豊田市運動公園陸上競技場など
4月19日～11月30日	第20回名古屋市障害者スポーツ大会	名古屋市の小幡緑地公園球技場、パロマ瑞穂北陸上競技場など
4月19日～21日	「バリアフリー2023」ー第29回 高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展ー	インテックス大阪（大阪市住之江区）
5月～8月4日（募集期間）	第60回点字毎日文化賞	毎日新聞東京本社での表彰式を予定
5月25～27日	ウェルフェア2023～福祉・医療・健康の総合展～	吹上ホール（名古屋市中企業振興会館：名古屋市千種区）
6月3日	JDS パンピーナの会設立20周年記念事業 記念公開講演会&交流会『今日も一日 楽しかった』～ダウン症のイケメン・あべけん太～	DMG MORI やまと郡山城ホール 大ホール（奈良県大和郡山市北郡山町211番地3）
7月2日	第39回愛知県聴覚障害者大会	一色町公民館（西尾市一色町東前新田8）
7月9日	盲動犬育成支援のための第41回日本ラ	ザ・シンフォニーホール（大阪市北区）



	イトハウスチャリティーコンサート	
8月～2025年7月	関西いのちの電話 第59期「電話相談ボランティア養成講座」	大阪市淀川区十三元今里3-1-72社会福祉法人博愛社5階会議室など
8月2日～6日	第44回子どもたちの讃歌展	大阪府立江之子島文化芸術創造センター
8月4日～8日	第40回土と水と緑の学校	和歌山県新宮市の高田地区一帯
10月9、14、15、21日	第41回スポーツフェスタ2023大阪	ヤンマースタジアム長居、大阪市長居障がい者スポーツセンター(大阪市東住吉区)など
10月15日	ファインエリアフェスティバル2023	堺市南區城山台5の府立障がい者交流促進センター(ファインプラザ大阪)など
10月22日	第51回全大阪ろうあ者文化祭	大阪市長居障がい者スポーツセンター(大阪市東住吉区長居公園1-32)
10月25日	第73回施設従事者激励会	アートホテル大阪ペイタワー(大阪市港区弁天1-2-1)
10月28日	第57回肢体不自由児者を支援するチャリティバザー	八尾市山城町1、第1公園(買物公園)
11月5日	第68回名古屋市身体障害者福祉大会	名古屋市中区役所ホール(名古屋市中区栄4-1-8)
11月18日	2023年度 医療社会事業従事者講習会	オンライン(ZOOM)
11月22日	第21回大阪救護施設合同文化事業	「シティプラザ大阪」大宴会場 SYUN-旬-(大阪府中央区本町橋2-31)
11月29日	令和5年度大阪府社会福祉大会	大阪国際交流センター・大ホール(大阪府天王寺区上本町8-2-6)
12月3日	第62回愛知県身体障害者福祉大会	あま市美和文化会館(あま市花正地先1番地1)
12月22日	第71回愛知県社会福祉大会	ドルフィンズアリーナ(愛知県体育館:名古屋市中区二の丸1番1号)
2024年1月19～26日	第43回『障がいのある子どもに学ぶ』図工展	大阪市教育会館(大阪府中央区法円坂1-1-35)
2月16～18日	2024国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会	Asueアリーナ大阪(大阪府中央体育館:大阪府港区田中3)
2月28～3月3日(審査会は2月27日)	第58回名古屋市障害者作品展	市民ギャラリー矢田 第1～7展示室(名古屋市中区大幸南1-1-10カルポート東3・4F)
3月3日	第42回耳の日記念 聴覚障害者と県民のつどい	ウイル愛知(愛知県女性総合センター:名古屋市中区上堅杉町1)
3月9日	令和5年度 合同求人説明会「福祉の就職総合フェア SPRING in OSAKA」	OMM2階(大阪府中央区大手前1)

## 公益事業 2

## シンシア基金事業

### ◎シンシア基金 (支払助成金より12万円を支出)

身体障害者をサポートする介助犬への理解を深め、育成や研究活動に役立てるため、1998年から阪神支局が始めたキャンペーンと連動して募金を呼びかけた。

3月末日までに寄せられた「シンシア基金」は28件94万円（前年37件675万円）となった。

身体障害者補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）の社会的認知を促進するため、毎日新聞社や兵庫県宝塚市などが主催する「第25回身体障害者補助犬シンポジウム」を宝塚市立中央図書館で11月26日に開催。経費として12万円を支出した。

#### \* 身体障害者補助犬ステッカー5,000枚を贈呈

社会福祉法人日本介助犬協会より身体障害者補助犬ステッカー5,000枚の送付依頼があり、同法人に在庫から5,000枚を送付した。

### ◎シンシア基金公募助成 (支払助成金より50万円を支出)

身体障害者補助犬の育成や支援に関わる団体などに公募助成する。

9月～12月15日の期間、応募を受け付け、2月2日に選考委員会を開き下記団体に50万円を助成した。

1. 日本介助犬協会（愛知県長久手市）

#### その他の名義後援事業

◇「介助犬フェスタ2023」を名義後援＝4月6日、愛知県長久手市の愛・地球博記念公園 地球市民センターで実施した。日本介助犬協会の主催。

## 公益事業 3

## 災害救助に関する事業

### ◎「災害救援基金事業」

#### \* 令和6年能登半島地震救援金 (支払助成金より2,000万円を支出)

2024年1月1日に石川県能登半島を震源とする地震が発生。1月5日に「能登半島地震救援金」の受け付けを始めた。QRコードを経由したクレジットカード決済による寄付も受け付けられるようにした。本団では初の試み。3月末までに大阪社会事業団に寄せられた救援金は1,642件、3,802万円（うちクレジットカード経由は101件114万円）。1月17日に第1次分1,000万円を、2月1日にも第2次分1,000万円を石川県に贈呈した。これまでの贈呈総額は2,000万円となる。

#### \* 東日本大震災救援金 (支払助成金より15万円を支出)

3月末日までに13件32万円（前年20件45万円）が寄せられた（\*総合計8,004

件 4 億8,626万円)。

3月に第22次分として、前年度からの繰越金と併せて15万円を、宮城県に贈呈。寄託総額は4億7,511万円となる。

**\* 毎日希望奨学金** (支払助成金より4,524万円を支出)

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支える「毎日希望奨学金」(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設)は13年目を迎えた。3月末日までに462件1,562万円(前年530件1,250万円)が寄せられた。

3月14日付朝刊で「奨学生募集」の社告を掲載するとともに、被災地の高校や大学などに直接照会をかけた。50人の募集枠に対して59人が応募。5月17日、有識者らによる選考委員会が開かれ、全会一致で59人に支給が決定。奨学生数は継続者とあわせて189人(高校生81人、短大・大学・大学院生94人、専修学校生14人)。9月に大学生1人が海外の大学への進学を断念したため、合計188人となった。

・ 4月25日、130人(4、5、6月分)	780万円
・ 6月24日、59人(4、5、6月分)	354万円
・ 7月25日、189人(7、8、9月分)	1,134万円
・ 10月25日、188人(10、11、12月分)	1,128万円
・ 2024年1月25日、188人(1、2、3月分)	1,128万円
合計4,524万円を支給	

## 公益事業 4 国際協力に関する事業

**◎世界子ども救援キャンペーン** (委託費より10万円を支出)

国際児童年(1979年)に毎日新聞社との共催で「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」としてスタート。記者を海外に派遣し、帰国後の紙面展開で苦境にある子どもたちの現状を克明に報じると共に救援を呼びかけている。

今年度は毎日新聞大阪本社の記者とカメラマンがパレスチナ難民の取材を企図していたが、現地の情勢や能登半島地震発生により延期した。渡航に備えて予防接種を先行して受けており、その費用として10万円を全体経費から支出した。

**\* 「世界子ども救援金」**

3月末日までに256件414万円(前年700件1,735万円)が寄せられた。

広く一般から申請を受け付ける「公募助成」と、今回のキャンペーンで紙面掲載された地域や団体を対象とした「取材地助成」(今年度は「緊急助成」、これまでの取材地で引き続き援助が必要と判断された「継続助成」(今年度はウクライナ支援団体への助成)の三つの支援を行った。いずれも活動内容や実績などから選考している。

**◎「公募助成」** (支払助成金より80万円を支出)

海外での支援活動を行う民間団体やそれに準じる団体に公募助成する。

9月～12月15日の期間、応募を受け付け、2月2日に選考委員会を開き下記4団体に総額80万円を助成した。

1. Inna Project (さいたま市中央区)
2. CLOUDY (東京都渋谷区)
3. Piece of Syria (大阪市住吉区)
4. ネパール震災プリタム実行委員会 (神戸市兵庫区)

◎「パレスチナ難民緊急助成」 (支払助成金より100万円を支出)

1. 国境なき医師団日本 (東京都新宿区) 100万円

◎「継続助成」 (支払助成金より40万円を支出)

1. 難民を助ける会 (AAR) (東京都品川区) 40万円

\*「トルコ・シリア地震救援金」 (5団体へ支払助成金より2,300万円支出)

2023年2月6日、トルコ南部を震源とする巨大地震が発生。2月10日から「トルコ・シリア地震救援金」の募集を開始した。今年度は19件60万円(昨年度からの累計で878件2,572万円)の救援金が大阪社会事業団に寄せられた。4月7日に昨年度からの繰越金を含めて第1次分計1,000万円を、9月8日に第2次分計1,300万円、の合計2,300万円を次の5団体に贈呈した。

	第1次分	第2次分	合計
1. AMDA (岡山市北区)	200万円	260万円	460万円
2. CODE海外災害援助市民センター (神戸市兵庫区)	200万円	260万円	460万円
3. 国境なき医師団日本 (東京都新宿区)	200万円	260万円	460万円
4. 難民を助ける会 (AAR Japan) (同品川区)	200万円	260万円	460万円
5. 国連UNHCR協会 (同港区)	200万円	260万円	460万円
			合計2,300万円

2023(令和5)年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2024(令和6)年5月  
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団